

価値を守りながら、親しまれる群落を目指して

～6月 自然観察会や出前講座が行われました～

6月13日、第2回の自然観察・保全体験会を開催しました。子どもたちを含めて20人を超える参加者を迎え、第1回とはまた違う様子を見せる植物や昆虫の様子に注目する様子が見られました。

『御池沼沢植物群落 保存活用計画』には、国指定の天然記念物として適切に保存しながら、市民に愛され、身近な憩いの場として親しまれるよう環境保全活動を実施したり、環境の整備を進めたりしていくことを目的としています。

4日には高校3年生の授業で、18日には出前講座を希望されたグループのみなさんが群落にお越しになりました。職員が講座に立ち会う中、ノハナショウブやトウカイコモウセンゴケ、ヤチヤナギやミミカキグサなどその日の植物の状況をよく目を向けることができました。

目を向ける中で特に感じたことは、「植物の様子は日によって違う。」ということです。



左の写真は18日の出前講座で参加者の方からいただいた西部指定地ゾーンⅢミミカキグサの写真です。今年度はじめての花を確認することができました。

昨年度に続いて13日の自然観察・保全体験会では参加者にアンペライやコイヌノハナヒゲの除去に取り組んでいただきましたが、その時には見つけることができなかった黄色い小さな花を確認することができました。貧栄養状態で日当たりを確保された裸地には、花を付けたミミカキグサだけ

だけではなく、小さな萌芽も確認できました。今後花をたくさんつけてくれること、ホザキノミミカキグサやムラサキミミカキグサが見られることを楽しみにしつつ、ゾーンⅢを離れました。

右の写真はゾーンⅤ湧水砂礫層露出ゾーンの様子です。日当たりをよくするため、環境保全ボランティアのみなさんに抑制種の除去



をしていただきました。水路沿いの少し高台の所には真ん中の写真のようなトウカイコモウセンゴケを観察することができました。トウカイコモウセンゴケのそばにはカキランの花も観察できました。西部指定地の湿生植物・食虫植物の様子を楽しむことができました。



6/3の東部指定地の様子
ノハナショウブが見られます。

7月の活動予定

- ・4日(土) 9時30分～タケ駆除、シラタマホシクサ周辺除草(西部指定地ゾーンⅠ、Ⅱ、Ⅶ-1)
- ・昨年に引き続き市文化財保護審議会委員であり、里山湿地研究所の代表である富田啓介先生による『天然記念物 学習会～御池沼沢をどう守り、どう地域に活かすか～』を7月29日(水) 10時～農業センター会議室(赤水町971-1)で行います。7月21日(必着)までに、専用フォームにてお申込みください。

